

7. 戦後日本の出発 を学ぶにあたって

1. 「戦後日本の出発」の学習が必要な理由

授業時間の制約があり、戦後史の部分は大急ぎになってしまいます。それでも、外国につながる生徒たちは、日本史をあまり理解していないからこそ、何とかここまで授業で取り上げてほしいと考えます。

「歴史総合」の単元構成では、明治～条約改正の部分で日本を中心に学び、その後、日清戦争～アジア太平洋戦争は、世界の流れの中で日本も取り上げていきます。もし「歴史総合」で日本の戦後史に触れる時間が取れないと、高校までに日本史について勉強していない生徒たちは、敗戦後、日本が新しく出発したことを意識しないで終わってしまいます。学んだ知識は、大日本帝国憲法と治安維持法、大東亜共栄圏の日本で止まってしまうのです。

「歴史総合」の教科書は、日本の戦後改革について、確認程度に事項が羅列され、具体的に内容を学ぶ形にはなっていません。そこで、「取り出し授業」用のこの教材では、中学校の教科書をもとに、基本的な戦後改革にしばって、内容を説明しました。これまでは、どの教科書より内容を少なく、と心がけてきましたが、ここでは逆になっています。

日本国憲法の内容については、具体的には、「公共」の領域です。「公共」の授業担当者と情報交換し、「歴史総合」か「公共」のどちらかで、日本国憲法についてしっかり学ぶ機会を確保していただきたいと思います。

2. 戦後日本を教科書のどこで取り上げるか 歴Ⅶと歴Ⅷの単元の関わり

戦後部分の学習単元の配列は教科書によって異なります。第二次世界大戦に関する学習が終わって、戦後をまず日本から始める教科書もあれば、世界を先に取り上げ、国際連合、冷戦、朝鮮戦争、第1次中東戦争まで終わってから日本を取り上げる教科書もあります。それらの間に日本を挟む教科書もあるわけです。

いずれにしても、時間軸に沿って学ぶわけではなく、一通り中学校で勉強を終えている、という前提にたっているのです、こだわっていないのだと思います。

ただし、「取り出し授業」の生徒たちに関しては、基礎知識がないという前提で教材を作成してきました。この教材では、歴Ⅶ「戦後日本の出発」、歴Ⅷ「冷戦の始まり」が同じ時期を扱っています。歴Ⅷ「冷戦の始まり」ではインドシナ戦争と合わせて、1976年のベトナム統一までをとりあげました。

実際、戦後の日本の出発は、当初の占領の時期に行われた非軍事化、民主化の部分と、日本が世界の冷戦体制に組み込まれていく朝鮮戦争の時期の2つに分けられます。冷戦を知らなければ、後半部分は正しく理解できません。そこで、歴Ⅷ「冷戦の始まり」で、国際連合の成立～朝鮮戦争を先に学び、その後歴Ⅶ「戦後日本の出発」をはさみ、再び歴Ⅷでインドシナ戦争～ベトナム戦争を学ぶといいと思います。